

# 学長からのメッセージ

## 創立140周年記念式典を終えて



資料写真：お茶の水女子大学 図書館



2015年11月29日は、本学の創立140周年記念日でした。当日は、澄み渡った青空の下、内外の多くの皆さまにご列席頂き、記念式典を共に祝い頂くことが出来ました。馳浩 文部科学大臣（代読・土屋定之事務次官）や、わが国の教育の発展と教育者養成のために本学と共に歩んできた筑波大学（元・東京高等師範学校）の永田恭介学長、ストラスブール大学のキャサリン・フローレンツ副学長、ケンブリッジ大学ニューナムコレッジのキャロル・ブラック学長、また、本学の同窓会である桜蔭会の内田伸子会長から、本学のこれまでの歩みへのご評価と、未来へのご期待について、温かなご祝辞を頂きました。そして、日本と本学の教育や研究の発展のためにご尽力下さった元・文部科学大臣の遠山敦子さま、日本とフランスの大学や研究機関との架け橋として長年にわたってご尽力下さり、特に本学の学生や研究者のフランスでの活動を支えて下さった中谷陽一ストラスブール大学協約教授、マリークレール・レット ストラスブール大学教授に、本学からの名誉博士称号をお受け頂きました。また、本学にお心をお寄せ下さり、多額のご寄附などを賜りました個人と団体の皆さまにお礼を申し上げる機会を持ちました。

最後に、2001年に本学初の女性学長となられた本田和子（ますこ）先生から、ご講演を頂きましたが、本学への愛に溢れ、機知に富んだ本田先生のお話から、出席者は大きな感動を頂きました。その一部を、是非、皆さんにご紹介したいと思います。ひとつは、ワンガリ・マータイさんに名誉博士号をお受け頂いたときのお話、そして、本田先生が本学の学生でいらっしやった頃にご一緒された上級生の方のお話です。

ワンガリ・マータイさんを、皆さんはご存知ですね。ケニア・ナイロビ大学で初の女性教授となられた生物学者ですが、「開発」の名の下に進められる環境破壊と、開発の恩恵からはじき出される人々を目の当たりにして、それをきっかけに環境保護活動に踏み出し、1977年に「グリーンベルト運動」を創設しました。この運動は、植樹という環境保護活動を通じて、農村地帯の女性たちに仕事を与え、女性の地位向上、貧困撲滅、民主化促進などを展開するものでした。マータイさんが亡くなる2011年までに、延べ10万人以上がこの運動に参加し、植えられた苗木は4500万本にも上るそうです。この地道な活動によって、2004年にアフリカ人女性として初のノーベル賞（平和賞）を受賞されました。2005年に毎日新聞社の招待で訪日され、日本の「もったいない」という考え方に共鳴されて、世界中で「MOTTAINAIキャンペーン」を推進された方としても知られています。この方に、本学から名誉博士号を差し上げたいと、毎日新聞社の知り合いの方を通じてお願いを致しました。数多くの大学からオファーがあったそうですが、マータイさんは最初にお茶の水を選んで下さいました。その際にマータイさんは、「お茶の水は、日本が近代国家になるときに政府が創設し、国が国民の税金で運営してきた古い大学だと聞いています。日本という国は、政府も国民も、女性の教育を大切にしているようです。女子教育のために頑張っているお茶の水は、これから女子教育を始めようとしている私たちのような国々にとっては“希望の星”なのです」と仰って下さいました。残念なことに、マータイさんは2011年に71歳で亡くなりましたが、アフリカの人々のため、世界の人々のため





に生涯をささげた素晴らしい女性ワンガリ・マータイさんから、私たちは多くの学びを頂きました。

また、マータイさんが仰って下さった“希望の星”という言葉から思い出されて、本田先生の上級生の方のお話もして下さいました。先生は東京女子高等師範学校に入学校され、途中で新制大学に変わったお茶の水女子大学を卒業されましたが、その頃にご一緒された3期上の方のお話です。当時の女性たちの多くは、若い男性たちが軍人として戦場に赴いてしまうため、高等女学校を卒業するとすぐに17～18歳で結婚するのが常でした。その方も、高等女学校を卒業してすぐに結婚されたそうですが、その後僅か3ヶ月でお相手が召集され、特攻隊員として南の海で戦死されました。17歳で戦争未亡人となったわけです。その方は絶望の淵に沈まれて、出口のない暗闇で悲しんでいらしたそうですが、その中で、心と東京女子高等師範学校で学ぶことを決意され、そこに“希望の光”を見出されたとのことでした。そのことを通じて、本田先生は、本学が女性の自律を支え続けて来たことに深く想いを致されたと仰いました。本学が、悲しみに沈んでいる方が立ち直るきっかけともなり、その後の有意義な人生を作るための学びの場となったことは、何にも変え難い嬉しいことです。そして、本学が、これまで多くの女性たちの希望の光となり得たこと、そしてこれからも希望の星となり得るだろうことを、本田先生はお話し下さいました。本学には、様々な役割が期待されて居ますが、希望の灯火を掲げ続

けることが、本学の大きな使命であることは、忘れてはならないことだと思います。

20世紀は戦争の世紀とも呼ばれ、2つの世界大戦は、世界中の多くの人々の命を奪い、残された人々を悲しみと後悔の淵に投げ込みました。どんな理由を言い立てたとしても、人と人が殺しあうようなことは決してあってはならないことです。世の中に「正しい戦争」や「正義の戦争」というものはないのです。

地球上で生きる生物の中で、人はその進化の過程で、唯一、倫理観や使命感といった「理性」を持ち得た生物です。理性によって様々な衝動を抑え、優れた思考力と判断力によって、人々の幸せを願い、平和な生活を実現することができる生物です。人々が幸せに暮らせる社会を作るために、私たちができることを考え、世界の人々が共に生きるための努力を続けて行きたいものと思います。

本田先生のお話を通じて、私たちが争いのない穏やかな日々を過ごし、愛と信頼で結ばれた人々との生活を慈しむことの大切さを、心に刻んだ時間でした。馳大臣のご祝辞にも、「お茶の水女子大学は、社会に向けて様々なメッセージを発信する、活力と革新性あふれる大学」とのお言葉がありました。私たちは、これまでの140年間で築いてきた女子教育の基盤を大切に、常に日本や世界の人々の幸福のために何ができるかを考え続け、学びと研究を深めて、これからの140年に向かって誇り高く存在し続ける大学でありたいと決意を新たにしています。

2016年2月  
学長 室伏 きみ子



**学長からのメッセージ**  
創立140周年記念式典を終えて